

報 告 書

(GPS 班で測量・設計システム展の特に GIS・GPS 講座に参加して)

期日:平成 15 年 6 月 12 日～13 日の 2 日間

場所:東京ビックサイト 参加者:GPS 班の城戸崎、倉本、加藤、3名

今回の研修にGPS班として参加させていただき、でき得るかぎり見て聞きました。

最初に、後で記述の講座の間に見学した機器会場では、測量機器もかなり進歩しているものが多く展示され、購入できればかなり威力を発揮できるだろうと思われるコンピュータソフト、測量機械、周辺機器がパンフレットにも示されている場所で多くのメーカーが出展していました。

が、私には、この景気低迷のなか、多くの各メーカーが待ち構えたように両脇の各ブロックに出店し、その間を見学者が見て廻る展示方法で、多数の人が見学してはいますけれど、何となく活気があまりないようにみうけました。ただ、もし自分に機器を直ちに比較する能力があれば目的の場所に目標を持って説明を聞くことが出来た、と少し今反省しています。

それにしても便利さと金額に驚きましたが、機器の進歩はめざましいものがあり、特に GIS・GPS・光波関連の測量ソフト、機械は分進日歩でないかと思うほどでした。

次に、他の会場で GIS 関連の講座がありましたので、あらかじめ3人で多くの講座の中の聞く会場の選択の計画を立てて、我々調査士がこれから取り組まなければならないだろう GIS (GPS を駆使した) の研究者、それを実行した自治体の発表(実例を挙げて成功した例、失敗例の報告も聞いたかったが)は熱意ある発表で引き込まれるものがありました。

概ね、成功した各発表者の意見は、GIS に対してはその自治体の財政の範囲で今出来ることから行動して各部、あるいは各自治体が垣根を作ることなく横の繋がりを重視して、しかも、連携して総当りでかかれればお互い今まで重複していたものを、各部所間の間仕切りを取り除き、ネットワークでつなげれば無駄も無くなり、できあがっていくことを力説していた様におもわれます。

そうすることによって、お互いの経費を省くことが出来るし、自然に GIS になる、そんなことを発表者が主に説明していたことだと感じました。

我々調査士も GIS を考える時代にあり、調査士も各調査士だけでなく、あるいは各調査士支部、本部でなく、壁を無くし、横の連携をネットワークで繋げることが最初の GIS ではないかと思います。

そうすることによって、お互いの経費を省くことが出来るようになり、意識の高揚にもつながり、仕事にもつながることになると思います。そんなことを、発表者が熱っぽく説明したいことと同じではないかと感じました。

意識は高く持つことは大切だけど、あまりにも高すぎるハードル(高い技術は必要)を設けることなく、各個性的な各調査士先生方の意見を多く取り入れて横の繋がりを図り、それこそ、ネットワークでつなげていけばこれが自然の GIS になると思います。

こういう研究チーム(つまり垣根を取り払う繋がり)を創り調査士型 GIS を創るのが最初の一步の様に研修に参加して思いました。

同時に、各発表者は、地域性もかなり力説しておりました。大分県の各自治体は、どういう取り組みをしているか、各市町村はどうしているか知りたい気がします。

平成 15 年 7 月

GPS 班 加 藤 明